

水不足時の冷害危険期終了後～登熟期間の水管理

現在、少雨傾向により、地区内で利用しているダム・河川の水が不足している状況にあります。

例年のように、冷害危険期終了後の中干し（落水）と出穂始からの浅水管理（入水）は、十分にできない状況にあります。

水稻の登熟条件を維持しながら、かんがい水を節約するために、冷害危険期終了後は、以下のことに注意して水管理を行ってください。

1 冷害危険期終了後の水管理

- ①冷害危険期終了後の「中干し」は実施しないでください。
- ②冷害危険期終了後は、出穂期間の水を確保するために、水深3 cm程度を維持してください。

【注意】冷害危険期終了後も、低温傾向が続く場合は「深水管理」を継続してください。

2 出穂期間の水管理

- ①出穂期間は、水深を2～3 cm維持してください。

3 登熟期間の水管理

- ①登熟初期・中期（出穂期後10日～3週間）に高温・日照不足が続く場合は、乳白粒、腹白粒・心白粒の発生が心配されます。
この対策として、登熟初・中期も水深を3 cm程度維持してください。
- ②降雨が十分あり、土壤水分が確保できる場合は、ほ場の透排水性に応じた時期に落水してください。
- ③落水後も、土壤水分70～90%を維持するように、必要に応じ「走水」を行ってください。

4 入水時間

- ①入水は、昼夜を問わず通水されている日に行ってください。
- ②一度に多量の入水を行うと、地域内でかんがい水の不足が生じます。水田毎に、入水時間をずらす等の工夫を行い、相互に水が利用できるようにしてください。

- ①降雨が十分あり、かんがい水が確保できるまで、水不足を想定した水田の水管理を心がけてください。
- ②かんがい水の確保量は、土地改良区により違いがあります。詳しくは、土地改良区の情報に基づいて水管理を行ってください。